

平成30年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日 時: 2018年11月1日(木) 13:00~16:10
 場 所: 兵庫県立大学 明石看護キャンパス (演習室 406)
 テーマ: 喪失に伴う悲嘆とグリーフワークの理論
 講 師: 坂口 幸弘先生(関西学院大学人間福祉学部人間科学科 教授)
 受講者: 5名(アンケート回収5名(回収率100%))
 主 催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療
 人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布敦子



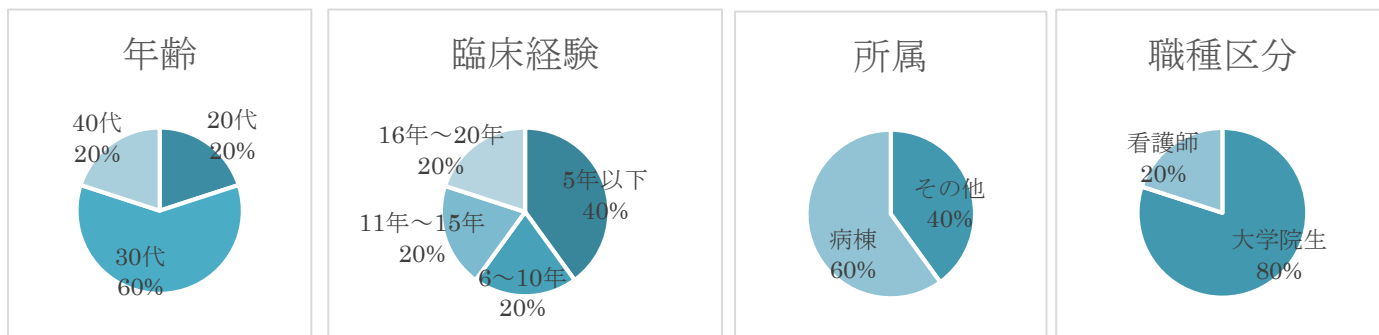
<概要>

関西学院大学人間福祉学部人間科学科 坂口 幸弘先生から、「喪失に伴う悲嘆とグリーフワークの理論 悲嘆ケアプログラムの実際」として、悲嘆(Grief)についての近年の動向、論文件数や経済コスト、有病率など多角的な面からご説明があり、定義や診断基準を踏まえ、看護師としてどのように関わっていくべきか具体的に考える講義でした。

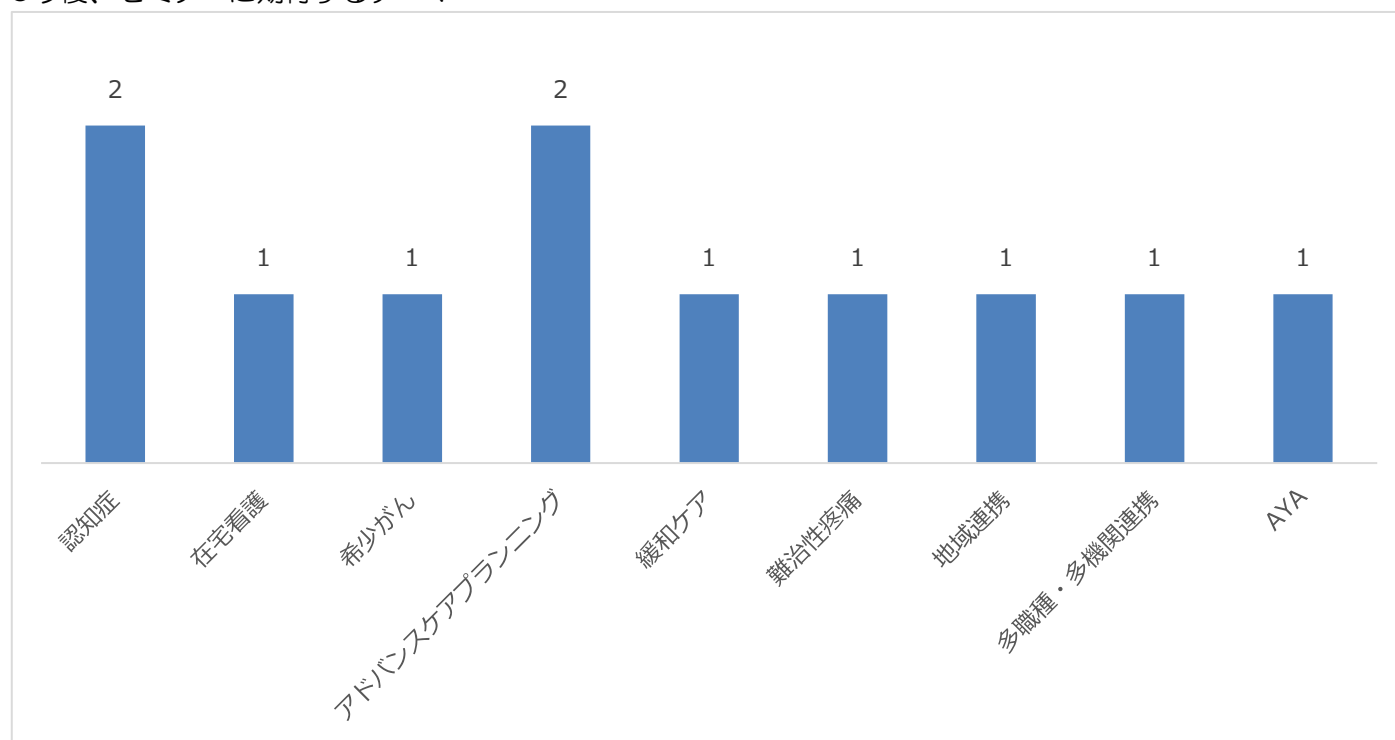
自殺対策基本法(2006年)やグリーフケア事業、遺族ケアサービスの現状についての説明もあり、その中でグリーフケアとして何をすればいいか多くの事例を交えて考えることができました。参加者全員「非常に役に立つと思う」という満足度の高い講義になりました。

<アンケート結果>

●参加者について



●今後、セミナーに期待するテーマ



●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ・グリーフワークは死別だけが対象ではないと知り、治療の場でも並行して行っていかなくてはいけないと思いました。
- ・グリーフケアの前提として「相手を思いやる気持ちがあるかどうか」が大切であるということが印象に残りました。日々丁寧なケアを心がけていこうと思いました。
- ・生前からのかわりがグリーフケアになると学び、本日の学びを臨床に戻ったときに生かしたいと思いました。
- ・グリーフケアというものがどういうものかということ、一から知れたことがまずとても学びになりました。なくなる前のかかわりがその後も影響することや悲しみを持ちながら生活をどうととのえていくか等印象的な話ばかりでした。
- ・グリーフケアといえば、死後に何をするかというイメージでしたが生前から行うケアがグリーフケアにつながっているということがとても印象に残りました。日々のケアがいかに大切かということに改めて感じました。

▼がん医療について、今、最も強く感じている課題をお書きください。

- ・グリーフワークを行うための信頼関係を築くだけの入院期間や看護師の感受性が今あるのだろうかと思います。
- ・高齢のがん治療 意思決定支援
- ・患者・家族が何を感じ、何を大事にしているかをくみとってケアすること

